

# 専門・認定看護師会ニュースレター

## クリティカル領域の高齢重症患者の看護

病態が重症化すると、動脈ラインの挿入や人工呼吸器の使用、鎮静薬などの薬物療法など侵襲的な医療が必要になります。高齢患者は予備力や回復力が低下しているため、身体的・精神的障害が発現しやすいことを予測した予防的なケアの提供が必要になります。

高齢患者の侵襲の高い医療による併発症には、**筋力低下/サルコペニア、呼吸器感染症、せん妄**などがあります。

健康な成人が、10日間の安静で約6.3%、疾患患者であれば17.7%の筋力量が低下すると報告されています。高齢者ではもっと高くなり、また回復するには長期間を要します。また、肺炎による死亡率（10万人対）は60歳未満が10.0以下であるのに対して、80～84歳が572.2、85～89歳が1143.9と75歳以上で急激に増加することが報告されています。せん妄のリスク因子には高齢が準備因子の1つにもあげられており、重症高齢患者はせん妄を発症するリスクは非常に高いと言われています。

これらを少しでも予防し早期回復をさせるためには、侵襲の高い状況からの早期離脱のためのケアと早期リハビリテーションの実施が重要となります。

